公益財団法人福島県国際交流協会 Fukushima International Association 広報紙

GYRO ジャイロ

FIA MAGAZINE

VOL. 123
2017 FEB.

CONTENTS

01 Interview with Foreigners
ルスワン・パニーダさん

03 タイと福島を繋いで10年。さらなる友好関係に向けて
船と翼の会ふくしまによるタイとの交流事業

04 タイと福島の懸け橋になりたい
タイ文化を福島で広める竹田有理さん

05 タイの人の心をキャッチ！福島の魅力を発信するタイ語SNS
フェイスブックを用いた福島観光地PR

06 福島県産桃の輸出のお話
福島県産の桃はタイでも大好評

07 FIA Information

日本とタイとの交流には長い歴史があります。今から130年前の1887年、タイとの国交が正式に開かれました。それ以降、日本の皇室とタイの王室の親密な関係や首脳レベルでの交流、緊密な経済関係を築いてきました。草の根レベルでの交流も活発で、対日感情がとても良好な国としても知られています。

福島県にも現在300人あまりのタイ出身の方たちが暮らしています。
今号のジャイロでは、福島とタイの繋がりを特集します。

水上マーケットの様子
タイ国政府観光庁(Tourism Authority of Thailand)より提供

国際交流について、皆さんのジャイロスコープ(羅針盤)になりたいとの思いから、広報紙の名称を「ジャイロ」としています。

Interview with Foreigners

Luesuwan Panida

ルスワン・パニーダさん

パニーダさんは、福島県郡山市内でタイ料理店を営んでいます。東日本大震災による被害で、市内の別の場所で営業していたお店を閉店せざるをえなくなりましたが、2011年夏に店を現在の場所に移転して再オープンしました。

結婚を機に福島に来てから20年以上。お孫さんもいるパニーダさんは、郡山市等に住んでいるタイ出身の女性たちの「お母さん」的な存在です。

そんなパニーダさんにお話を伺いました。

福島にいるタイの方々にどのような助言やサポートをしていますか

日本語を聞いて理解でき、また話すことができる人は多いですが、日本の文字は漢字、ひらがな、カタカナがあって覚えるのが大変なので、読んだり書いたりすることは苦手な人が大部分です。そのため、様々な書類手続きをするときにはサポートが必要です。

例えば保険の手続きなどでは、普段使っていない日本語がたくさん出てきますので、その言葉の意味、内容を説明してあげています。

また、旦那さんが亡くなってしまい、お葬式をしなければならなくなったのですが、その習慣がわからなくて困ったと相談されたこともありました。「通夜」や「納骨」などの意味や、何をすれば良いかなどをお話ししました。

そういったサポートの他に、一緒に市役所に行ったり、いろいろ話を聞いてあげたりすることもありますが、こちらの方が多いかもしれません。

この店に来て、タイの料理を食べ、食材を買い、タイ語でおしゃべりしたり悩みを相談することでリフレッシュしてもらうことが一番のサポートなのかもしれませんね。

パニーダさんとタイ出身の友人の皆さん

このお店でタイ出身の皆さんが集まることはありますか

お正月には、毎年タイ出身の人達とパーティーを開いています。おせち料理ではなく、みんながそれぞれに作ったタイ料理を持ち寄って賑やかに過ごします。でも今年は、プミポン国王陛下が亡くなって1年間喪に服すことになっているので、パーティーはしませんでした。

それから、時々誕生日パーティーもしますよ。バースデイケーキに加えて、タイのお祝いの席には欠かせない「フォイトーン」という卵黄を使ったお菓子も並びます。

昨年は、お店の開店5周年を記念して「ワットパクナム日本別院」という千葉県成田市にあるタイのお寺からお坊さんをお招きし、ご祈祷をしていただきました。そのときは、SNSや声掛けでお知らせしたところ、30～40人のタイ出身者が集まってこの店がいっぱいになりました。タイの人にとって、仏教は非常に大切なものです。お坊さんにお経を上げてもらって、私も参加してくれた人もとても心が安らぎました。タイ女性の日本人の旦那さんも数人参加していたんですが、日本の仏教とはだいぶ違っていたようで、見たことがない光景にとてもびっくりしていました。

パニーダさんと知り合って タイに行ってみたいという人はいますか

このお店に来るようになって、そう言ってくれる人は多いですよ。そんな声を聞くととても嬉しくなります。通訳兼ガイドで皆さんと一緒に行けたら楽しいだろうなと思いますが、今は忙しくて余裕がありません。でも、いつか必ず実現させようと思っています。

タイの食材も充実

福島とタイをさらに繋げるために 何が必要だと思いますか

福島のイメージを変えたいと思います。震災前、タイの人達は福島に対し、リンゴや桃を始めとした美味しい果物が生産され、土地が豊かで温泉もたくさんあるといったとても良いイメージを持っていました。しかし、震災の後は「津波」や「放射能」といった怖いものに変わってしまいました。

５年以上経過した今でも、そのイメージが残っていることは残念で仕方がありません。実際福島で暮らしていて不安に感じることはほとんどありませんし、美味しい果物は安全が確認されています。

私自身、震災直後は不安に感じタイに避難しましたが、駐日タイ大使館から聞いたり、タイでのテレビを見たりして福島の状況は安全だと判断し帰ってきました。これからも正しい情報を集めてそれを理解し、「福島は大丈夫だよ」というメッセージをフェイスブックやＬＩＮＥを通してタイに発信していきたいと思っています。

それから、福島県には英語や中国語の観光パンフレットがたくさんありますが、タイ語は少ないですね。タイ語のパンフレットも作って、どんどんPRして欲しいと思います。

Column

曜日ごとの色と仏像

みなさんご存じでしたか？タイでは曜日ごとにその曜日の色や仏像が決まっていて、タイの人達には、自分が生まれた曜日の色のものを身につけるようにしたり、お寺に行ったときは自分が生まれた曜日の仏像に拝んだりすることが幸運をもたらすという考え方が深く浸透しています。日本では自分の生まれた曜日を気にすることはあまりありませんが、タイの人達は大抵自分が何曜日生まれなのか知っていますし、日本でいう星座占いや血液型占いのように、曜日ごとに性格や運勢を占ったりします。昔一般国民がまだカレンダーを持っていなかった頃は、宮廷に出仕する女性の洋服の色を見て人々はその日が何曜日かを知ったといいます。ちなみに、日曜日は赤、月曜日は黄色、火曜日は桃色、水曜日は緑色、木曜日はオレンジ色、金曜日は青、そして土曜日は紫色です。在東京タイ王国大使館のホームページに生まれた曜日による性格占いが載っていますので、興味のある方は是非一度ご覧ください。なお、自分の誕生日の曜日は、インターネットで「誕生日の曜日」で検索することができます。

タイと福島を繋いで10年。さらなる友好関係に向けて

「船と翼の会ふくしま」による タイとの交流事業

菅野裕子さん

福島には「船と翼の会ふくしま」というボランティア団体があり、10年前からタイとの交流事業を行っています。

「船と翼の会ふくしま」の前会長で、交流事業を立ち上げた菅野裕子さんにお話を伺いました。

タイとの交流事業を始めたきっかけは

「船と翼の会ふくしま」は、内閣府青年国際交流事業（航空機による海外派遣・東南アジア青年の船など）の参加者が設立した社会貢献活動を目指す団体で、52年の歴史があります。

タイとの交流事業のきっかけは、各国の青年が内閣府の招へい事業で日本を訪れ、「NPOマネージメント」をテーマに話し合った際、「船と翼の会ふくしま」が用意したプログラムに感銘を受けた「ASSEAY Thai land」という団体のタイの青年から、「今回限りではなく、今後も共に学ぶ相互交流をしましょう」と提案を受けたことです。この団体は内閣府青年国際交流事業に参加したタイの人達の全国組織です。

それまでも個人的に「タイに遊びに来て欲しい」と言われたことはありましたが、団体として提案を受けたのは初めてだったので、自分達のプログラムが認められ、とても嬉しかったですね。

東日本大震災のときのタイの人達の思い

東日本大震災の年は、タイも大洪水に見舞われた年でした。自分達も大変なのにもかかわらず、「避難を希望するならいつでも来ていいよ」と言ってくれました。また、タイで福島の犠牲者のためにお坊さんを呼んで祈祷会を開いてくれたり、震災直後の3月末には会宛に3000ドルの義援金を贈ってくれました。

タイの方達が福島を思ってくれていることが伝わり、とても嬉しかったですし、タイを思う気持ちがより強くなりました。

10年前に始めた事業ですが、これからも良い交流になるようにお互に努力していきたいと思います。そして、たくさんの方達に関わって欲しいですね。

黄色い帽子贈呈式後、花いちもんめを体験する現地小学生

交流事業の具体的な内容は

1つめは「夢企画～福島・タイ交流プログラム」で、1年ごとにスタディーツアーを交互に実施しています。いつもタイから10名が来て、福島からは5～6名が行きます。スタディーツアーでは、現地の学校を訪問し生徒と交流したり、一般家庭にホームステイするなど、普通の旅行にはないプログラムを経験できます。また、日本よりも貧富の差が大きく、それを目の当たりにすることで、メディアでは伝え切れない現状を実感することができます。タイの方が福島に来る際は、皆さんがそれぞれ料理や舞踊など得意分野を披露してくれます。またタイの代表として来ているという意識が高く、自分の国のことを語るのが上手で驚かされます。

2つめの「Yellow Hat Project」は、小学1年生が使う黄色い帽子を回収し、タイで帽子を必要としている学校や施設に贈呈する取組です。

今後タイとの交流事業に入れてみたいプログラムは、タイ語を使ったワークショップです。タイの方が福島に来て小学校で交流した際、そこで交流した3年生の子ども達がすぐにタイ文字を覚えて、自分の名前を書いたりしていました。

タイ文字は日本人がみると独特の形をしていますが、それが子ども達には新鮮だったようです。お互いにタイ文字で書いた名前を見せ合って楽しそうにしていて、タイの方達も嬉しそうだったのが印象的でした。それまでタイの方々とは英語でコミュニュケーションをとっていたのですが、子ども達の様子を見ていて、お互いの国の言葉に触れる機会があると面白いと思ったのです。

福島でのスタディーツアー参加者の皆さん

タイと福島の懸け橋になりたい

タイ文化を福島で広める

タイ舞踊、タイ式マッサージ、タイ料理など日本でも人気のあるタイ文化。そこにはお客様や大切な人への心配りを忘れない「おもてなし」の心があります。そんなタイ文化を代表する、果物や野菜に彫刻を施すタイカービングを通して、福島でタイ文化の普及に努めている竹田有理さんにお話を伺いました。

竹田 有理さん

夫の3年間のタイ赴任に同行し、タイカービングをはじめ、タイ式マッサージ、タイ料理などを修得。帰国後は、福島市内を中心にタイカービングやタイ料理の教室を開いている。

タイカービングの魅力は

タイカービングの魅力は、専用ナイフ1本で始められ、果物や野菜など日常にあるものが世界に1つだけの特別なものになることです。タイでは、お客様を迎える際のウェルカムボードのような意味合いもあり、「これほどの気持ちであなたを待っていました」というメッセージになります。

タイでは学校の家庭科の中でも教えており、出来る方は多いですよ。

タイへの思いを教えてください

私にとってタイは「第2の故郷」です。タイの人がよく使う言葉に「マイペンライ」があり、日本語にするといろいろな意味になるのですが、例えば、何かいいことをしてお礼を言われた時「マイペンライ」(どういたしまして)。仕事をストップしてお年寄りに親切にしたり子どもを可愛がっても、待たされている人も笑顔で「マイペンライ」(まあいいか)。何か問題が起こったとき「マイペンライ」(大丈夫だよ)、不安そうにしていると「マイペンライ」(心配ないよ)となぐさめてくれ、問題が大きくなった時は「マイペンライ」(仕方ないよ)と元気づけてくれます。カービングを習い始めた頃うまくいかなくても、体調が悪くて病院に行った時も、カービングの先生やお医者さんにこの言葉を言われて安心しました。

穏やかで優しい人がとても多くて、タイにいるととても心が安らぎます。今でも、時々タイにまた「帰りたい」と思ってしまいます!

◀カービングを施したリンゴ

福島で教室をはじめようとしたきっかけは

東日本大震災直後の平成２３年3月１７日に帰国しました。タイの友人達の中には心配して「帰らないで!」と泣く人もいました。

でも、帰って来たからにはタイにいる友人達に福島で震災に負けず元気に過ごしていることを見て欲しかったし、うつむきがちな福島の人たちに少しでも気持ちを前に向けて欲しい、そのために何ができるだろうと考えていました。

そんな時に、「タイのことを話してみないか」と知人から誘われ、その思いと機会が重なりました。それから少しずつ、タイカービングの紹介やタイ文化についてお話しています。習っていた時は、まさか自分が教えるなんて思っていなかったんですけどね。

今後の夢や抱負を聞かせてください

教室では、初めての人でも参加しやすいように福島で手に入りやすい材料で講習するなど、「気軽で、手軽で、楽しい」教室を心がけています。

教室に参加してくれた人は、タイをより身近に感じるようになり、実際にタイに旅行に行ったときには、旅行をより楽しめるようです。また、福島に来たタイ人に話しかけてみたという人もいました。

いつも福島にいるタイ出身の友人と、福島とタイの友好のために何ができるかを話し合っています。

自分ができることをコツコツ重ねながら、タイの文化を福島に伝え、これからもタイとの懸け橋になっていきたいですね。

▲カービングを施した石鹸

タイの人の心をキャッチ！福島の魅力を発信するタイ語SNS

フェイスブックを用いた福島観光PR

美しい自然、美味しい食べ物、温泉。魅力的な場所やモノがいっぱいの福島。

そんな魅力を昨年7月からタイ現地の目線で発信し続けている「Welove Fukushima」というタイ語のフェイスブックページがあるのをご存知ですか。そのページの運営、管理を県から委託されているパニット・プーリワットさん（愛称オッドさん）にお話を伺いました。

この仕事を始めたきっかけを教えてください

私は旅行が好きで、10年前から日本にも何度も来ているのですが、福島はお気に入りの地域の1つでした。

私はタイで旅行会社を経営していて、震災後、福島県が外国人の旅行関係者を対象に招へい事業を実施した時にも来県しましたが、その時に、福島に何回も来ている私であれば福島の良さをタイの人達に向けて発信していけるだろうと、県の担当者からフェイスブックページの立ち上げ、発信のお話をいただきました。

フェイスブックに投稿する記事は、私やスタッフが撮影したたくさんの写真からフォロワーの関心を引きそうなものを選び、注意事項やおすすめの時間帯、持っていくと便利なもの等、福島に来る時に役立つ情報を入れて書くように心がけています。

パニット・プーリワットさん
（愛称オッドさん）

フォロワーの反響はどのようなものがありますか

約4万4千人いるフォロワーが好む記事は「綺麗な観光地」、「温泉付き旅館」、「ショッピングできる所」、「美味しい食べ物」の4つです。投稿すると、すぐに「行き方を教えてください！」「もっと詳しく！」という反応が来るんですよ。

フォロワーからのコメントには100%、できるだけすぐに返信しています。ですから、何時でもどこでもフェイスブックページのチェックは欠かしません。

特に好評なのは福島の春の風景です。花見山はタイの人にもとても人気があるんですよ。それに桃の花が一斉に咲く風景も大変評判です。町中がピンク色に染まって本当に美しいですよね。

反響があった投稿記事をより詳しく書くこともしますし、フォロワーから「こんな情報が欲しい！」という要望を受けて記事を投稿することもあります。

「Welove Fukushima」はフォロワーと共に作り上げていくページだと考えていて、発信する側の一方通行にならないように気をつけています。

投稿した記事を読んで福島を訪れてくれた人はいますか

たくさんいます！実際に福島に来た人が写真をフェイスブックに投稿してくれたり、メッセージを送ってくれたりしています。

私はフェイスブックの発信、更新だけでなく、こうしたフォロワーとの交流を一番大切にしています。福島を介した繋がりができることがとても嬉しいのです。

そして、福島とタイの繋がりを作って行けることにとてもやりがいを感じますね。これからもフェイスブックを続けていきたいと思っています。

◀フェイスブックを更新しているタイ人スタッフ

オッドさんの福島への思いをお聞かせください

福島が大好きです。福島には美しい、本当の自然があると思います。原発事故の影響で福島に観光客が来ないことに理不尽さを感じます。

「福島の良さをより多くの人に知ってもらいたい！」そんな想いから、これからも特に力を入れて福島の魅力を発信していきたいと思っています。そして、タイと福島の繋がりをたくさん作っていきます。

私の経営する旅行会社で福島ツアーを企画したことがあります。正直に申し上げると、原発事故による放射線の影響を不安に思ったのか、中には直前になってキャンセルした方もいらっしゃいました。でも、４０名ものタイの方が福島に来てくれて、大変好評でした。これからも、私自身が福島に来て、「福島は大丈夫！」と証明していきたいです。

震災から５年が経ち、着々と復興を遂げているのに、まだまだ外国人観光客が少ないですね。先程の話にも繋がりますが、私自身がこれからも福島に来て、見て、感じたことを発信しつづけることが大切なのではないかと思います。

福島県産桃の輸出のお話
福島県産の桃はタイでも大好評

福島県県産品振興戦略課からの情報によると、平成２３年3月の東日本大震災に引き続く原子力発電所の事故で、福島県の農産物の輸出はストップしてしまいましたが、いち早く翌年に福島県産の桃の輸出を再開することができた国はタイでした。

平成２７年度までは毎年１～2トンの輸出量でしたが、平成２８年度には約21トンの輸出が実現。これは、コストが安い船便を利用して輸送コストを抑えつつ、鮮度を長時間保てる特殊コンテナを採用したことと、福島の桃の美味しさをタイのお客様に認めていただけたことによる成果です。

輸出された桃は、バンコク市内にある百貨店など約４０店舗で販売され、とても好評でした。

最新のデータによれば、平成28年にタイに輸出された国産の桃は約30トンでしたが、その7割以上（つまり日本一！）を福島県産の桃が占めています。

■平成28年東南アジア諸国へのモモ輸出量

国　名	日本全体（トン）	うち県内分（トン）	市場占有率（%）	
タイ	29.1	21.5	73.9	1位
マレーシア	9.5	7.3	76.8	1位
インドネシア	0.9	0.6	66.7	1位
シンガポール	10.1	1.2	12.1	

※日本全体の輸出量は財務省貿易統計より、県内分は県の集計

私たちは、賛助会員(団体)として協力しています。
（平成28年7月～12月末受付分）

陽光社印刷株式会社	会津土建株式会社	株式会社 クサカ印刷所
白河市国際交流協会	有限会社 エンドースクリーン	あづま脳神経外科病院
田村市国際交流協会	郡山ユネスコ協会	ふくしま青年海外協力隊の会
南相馬市国際交流協会	会津坂下町国際交流協会	法務大臣告示校:福島日本語学院
伊達市国際交流協会	川俣町国際交流協会	会津喜多方国際交流協会
福島県南土建工業株式会社	公益財団法人福島県産業振興センター	MCS GROUP 株式会社 本宮会計センター
福島民報社 http://www.minpo.jp/	ふくしま子どもの日本語ネットワーク	日本赤十字社福島県支部
吉野建設株式会社	福島県国際理解教育研究会	ふくしま・ベトナム友好協会
にほんまつ地球市民の会	会津バスグループ 会津トラベルサービス株式会社	福島縣商工信用組合

(公財)福島県国際交流協会は5つの基本方針に基づき事業を実施しています。

基本方針

1 多文化共生による地域づくりを推進します。
2 多様な主体とともに国際交流・国際協力活動を推進します。
3 グローバル社会で活躍できる人材を育成します。
4 海外での風評の払拭に向けて、福島の現状を正確に伝えます。
5 財源の確保に努め、健全な運営基盤の確立を図ります。 (第5期運営基本計画より抜粋)

賛助会員を募集しています

当協会は、国際交流を通じて地域の活性化とより豊かな県民生活を実現するため、様々な事業を行っています。当協会の趣旨に賛同し、会費という形で当協会の活動をサポートしてくださる「賛助会員」を募集しています。

■年会費
個人会員 3,000円／口
団体会員 10,000円／口

■振込先／公益財団法人 福島県国際交流協会
郵便局口座[02130-2-15560]

■会員の特典
①当協会主催事業をはじめとした国際交流・協力に関わる様々な情報を掲載した広報紙ジャイロ(年2回発行)をお届けします。
②当協会所蔵の書籍や資料、ビデオを無料で借りることができます(一部貸出しできない本もあります)。
③団体会員については、国際理解出張講座を負担金(1講座につき6,000円以上)3,000円でご利用いただけます(旅費込)。
④団体会員については、広報紙ジャイロで団体名をご紹介します。

■所得控除
当協会への賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

寄附金を募集しています

当協会では、皆様からの寄附金を募集しています。寄附をしていただける方は、所定の「寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、持参、メール、ファックス又は郵送にてお申し込みください。申込書を受理後、振込用紙をお送りいたします。詳細につきましては、当協会HPをご参照いただくか、直接お問い合わせください。

外国出身者のための相談窓口・電話による通訳サービス

当協会では、外国出身者のための相談に多言語で対応しています。また、外国出身者が役場で様々な手続きをする際、電話で通訳します。

■英語・中国語・日本語
火曜日～土曜日 9:00～17:15

■タガログ語・ポルトガル語・韓国語
木曜日 10:00～14:00(但し、第4・5木曜は事前予約が必要)

[相談専用] TEL 024-524-1316
FAX 024-521-8308
E-mail ask@worldvillage.org

英語版及び中国語版スマートフォン専用ページ開設のお知らせ

当協会では日本語版のスマートフォン専用ページを運用しておりましたが、このたび新たに英語版及び中国語版を開設しました。日本の風習や地域のイベント情報など生活に関連した様々な情報を、より見やすくわかりやすい形で発信していきます。お知り合いの外国出身の方々にもお知らせください。

また、Facebook(フェイスブック)、Twitter(ツイッター)、メールマガジンによる情報発信も行っておりますので是非ご覧ください。

公益財団法人 福島県国際交流協会

TEL 024-524-1315
FAX 024-521-8308
E-mail info@worldvillage.org

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1
福島県庁舟場町分館2階